

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

ものとの関わり～大型箱積木～／墨田区立立花幼稚園

子どもたちの遊ぶ姿の中から、ものとの関わり方が変容していく姿に注目したことはありますか？

この事例の園では、大型箱積木に関わる5歳児の姿を、数か月追って記録することで、子どもたちの遊び方の変化や遊びの中で経験していることを捉えて保育を進めています。ものとの関わりを通して、感覚・感性を発揮して考え創り出していく力やものを大切にすることを育むことは、「科学する心」に繋がります。



● 高いところに乗りたい！／5歳児

✦ 子どもたちの遊ぶ姿

● 6月中旬

- 学級で、数日間継続して読み聞かせをしている童話のイメージから、Aちゃんたち2人が探検ごっこを楽しんでいる。
- 別の場ではBちゃんたち3人が、大型箱積木（※以下積木）で戦いごっこの拠点を作っている。この日は積木で空洞ができるように構成している。中に空き容器等で作った武器をしまい積木で隠し見えないようにしている。
- 探検ごっこをしていたAちゃんたち2人は、隙間からその武器を覗いている。そして、積木の上を拠点にして遊び始める。
- 「探検に来ましたー」「登って探検！ここ、いいなー楽しいなー」「よし、もっと積木を足そう！」積木遊びをしていたBちゃんたち3人も、Aちゃんたちの様に積木の上に乗って、そこを拠点とするようになる。



● 6月下旬

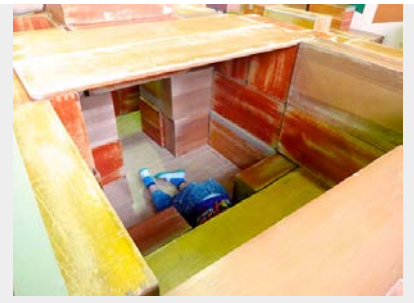
- この日は遊びの流れからではなく、Aちゃんたちは、初めから上に乗って遊ぶための場を作ろうという目的をもって、積木で作り始める。
- 積木を重ねない場合には直方体や2倍立方体の積木を縦に使い、なるべく高さが出るようにしている。また、積木を重ねる場合には、積木を横に使い、倒れないように工夫するなど、同じ型の積木でも、目的によって使い方を変えている。



● 7月上旬

- 立方体や平方体の積木を高く積んでいくことを繰り返していくうちに、板積木を使った空間のある複雑な形を作ることができるようになってきた。「屋根があるお家が出来た」「ここに武器が隠せるんだ」などと、伝え合って、場の使い方が

イメージを共有している。



● 7月中旬

- 別の子どもたちが板積木の上に乗って、そこを拠点にする遊び方を思い付き楽しんでいる。その様子を見てAちゃんたちは、板積木を重ねる方法を使いながら、見よう見真似で再現してみる。
- できあがって上に登ると、「わー高いー！」「2階だ」と大きな声をあげて喜んでいる。「わー！上に乗れそうだ！」「板積木で作ったトンネルの上にさらに重ねてみたよ」
- しかしまだ不安定な箇所がある。「ちょっとここグラグラするね。先生押さえておくよ？」と言って保育者が押さえる。子どもたちは「ありがとう」「よかった」「でもこれ、先生がいないと上に乗れないね」と話している。
- 「みんなで乗れて嬉しいね！」「でももっとグラグラしないように作れば先生なしでも危なくないぞ！次やってみよう！」と、次の目的をもった。



✿ 子どもが経験している内容

- 空き容器などで作った武器を隠す場所を積木で作って遊ぶ。
- 積んだ積木の上に乗って拠点にする遊び方を思い付き、考える。
- 積木を高く積んで乗れるような場所を作る。
- 安全な積み方を考える。
- 少ない積木で高く積む方法を工夫する。
- 積木と板積木を使って、いろいろな形を作ることを楽しむ。
- 友達の様子を見て、自分たちにも取り入れてやってみようとする。
- 板積木を重ねる方法を使って高く積み上げる方法を考える。
- 積木で作った場に乗る、目的を実現したことや自分たちで作ったことの喜びや楽しさを感じる。

✿ 振り返って

大型箱積木を使って、いろいろな遊びを繰り返したり、いろいろな子どもが積木の場に関わったりし、偶発的な動きから積木を積んだ上に乗ることを楽しみ始めた。園にある限られた積木を高く広く安全に積むためには、効率よく積木を並べる必要があり、子どもたちは自分の目的を達成するために積木の形を生かして工夫している。じっくりと積木と関わることでできる時間や空間を確保していくことで、積木の扱いに慣れ、積木の性質に気付き、いろいろな積み方を考えたり、工夫したりしていく姿に繋がった。友達や保育者の存在が、刺激となり、遊びが面白くなったり広がったりしている。「科学する心」を育むには、刺激し合い、共に考え共に楽しむ、そのような友達や保育者との関係づくりが大切であることを感じた。